

政策立案ワークショップ実施計画書

1. テーマ

瑞浪駅周辺再開発事業 ～未来の子どもたちに渡せるまち～

2. 背景

瑞浪駅周辺は、昭和 50 年代当初に市街地整備されてから 40 年近くが経過しており、建物など施設の老朽化や住民の高齢化、商店街のにぎわいが失われているなど、中心市街地としての活性化が課題となっている。このような状況を打開するため、平成 28 年度より関係地権者などの方々による勉強会、先進地視察などが開催され、瑞浪駅周辺のまちづくりについて活発な議論がされている。

検討が進む現在では、駅北地区に図書館、福祉関連施設などの点在する既存施設を集約し、新たな機能を加えた複合公共施設の整備を想定している。駅南地区では、商業施設の入った再開発ビル、子どもたちが安全に遊べる芝生広場など、地域住民だけでなく、多くの市民が憩えるまちを目指している。

「未来の子どもたちに渡せるまち」をコンセプトに掲げ、駅周辺再開発を中心とした市全体の地域活性化に取り組んでいるところである。

概要：別添「瑞浪駅周辺まちづくり基本方針」（案）

（※4.28 総合計画審議会では添付しません）

3. 目的

前述にて記したように、関係者が検討を重ねた結果、駅北側、南側での整備の方向性は既に決まっているものの、具体的な計画はこれからという段階である。

本政策立案ワークショップでは、この基本方針に基づき、どのように計画を具体化していくか、どのようなまちづくりを目指すべきかを検討するための一助としたい。

4. 政策立案ワークショップ参加者

・瑞浪市職員

都市計画課：駅前再開発事業担当課、企画政策課：総合計画担当課 5 名程度
20 代若手の職員 5 名程度

・内閣官房にて選定いただく有識者

- ・内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 職員
- ・経済産業省地域経済産業グループ 職員
- ・経済産業省中部経済産業局 R E S A S 普及活用支援調査員
- ・経済産業省中部経済産業局 職員

5. 具体的内容

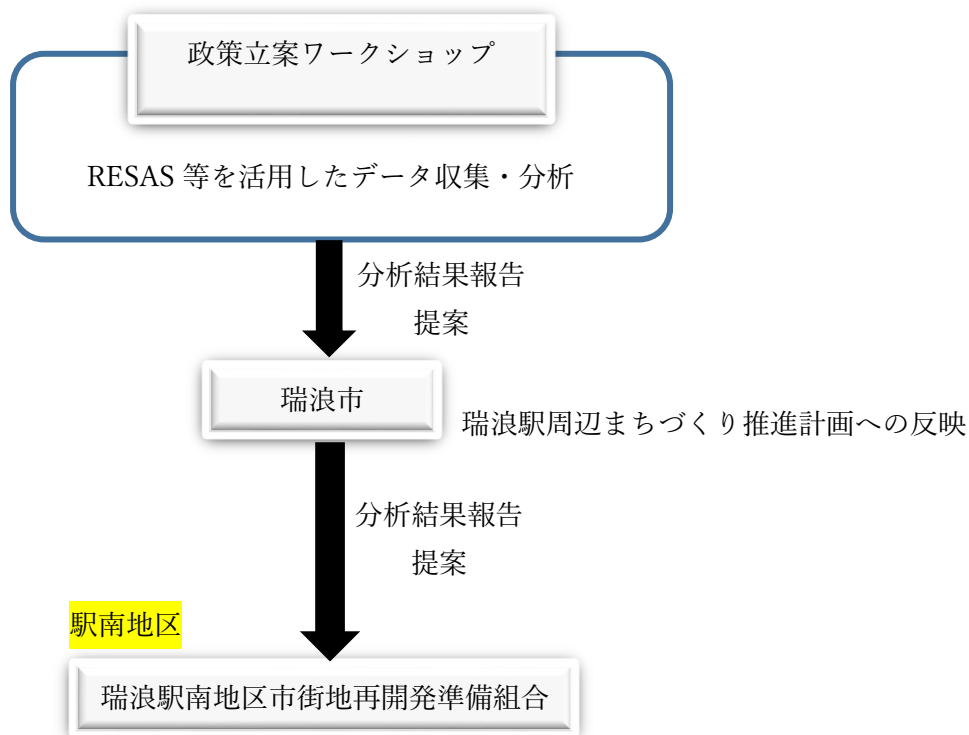
統計データを活用した保留床の処分及びテナント誘致のための基礎データ作成

駅南エリアでは、駅に隣接する利便性の高い場所に、地権者だけでなく新たに住みたい人も入居できるマンションと、飲食店やスーパー・コンビニ等の店舗が入った再開発ビルを整備する予定である。

近隣不動産会社に、マンションを整備した場合の入居者の見込みや、規模の妥当性などをヒヤリングするものの、データに基づくものではない。

本ワークショップでは、瑞浪駅周辺の人流や全国的な類似規模の取組みなどを把握することで、瑞浪駅におけるマンション誘致の適正規模や民間事業者へテナントの参入を促すための根拠データとして整理・活用する。

6. 政策立案ワークショップ活用イメージ



7. 事業スケジュール

予定時期	内容
令和 4 年 4 月下旬	RESAS 研修
5 月上旬	データに基づいた方向性の検討・政策立案①（ワークショップの全体的な検討の方向性について、有識者を含む関係者全員で検討）
5 月中旬	RESAS 等によるデータ分析①
5 月下旬	RESAS 等によるデータ分析②
6 月中旬	データに基づいた方向性の検討・政策立案②
7 月中旬	データに基づいた方向性の検討・政策立案③
8 月下旬	報告書まとめ

※状況によりオンラインで実施

政策立案ワークショップ参加者

所属	役職	氏名	備考
瑞浪市経済部商工課	主事	渡邊 美月	
瑞浪市民生部社会福祉課	主事	近藤 群	
瑞浪市総務部総務課	主事	安藤 みちる	
瑞浪市教育委員会社会教育課	主事	榊原 勝哉	
瑞浪市総務部市民課	主事	木股 佳輝	
瑞浪市総務部企画政策課	主事	森 佑太	
内閣官房にて選定いただく有識者			
内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局			内閣府、経済産業省にて調整中
経済産業省地域経済産業グループ			
経済産業省中部経済産業局 RESAS 普及活用支援調査員			
経済産業省中部経済産業局			
瑞浪市建設部都市計画課	都市計画課長	安藤 洋一	事業担当課総括
瑞浪市建設部都市計画課	都市再開発係長	小川 怜	事業担当課
瑞浪市建設部都市計画課	主事	本田 満久	事業担当課
瑞浪市総務部企画政策課	課長	加藤 昇	企画担当課総括
瑞浪市総務部企画政策課	企画政策係長	津田 良介	企画担当課
瑞浪市総務部企画政策課	主事	三浦 啓輔	企画担当課

※若手職員の選定は、20代、各部のバランスを勘案。